とちぎ学力向上推進事業（とちぎっ子学力アッププロジェクト）
平成26（2014）年度～令和７（2025）年度　12年間の取組のまとめ【概要版】

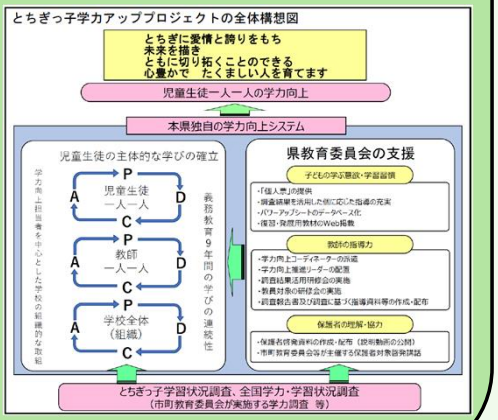
とちぎっ子学力アッププロジェクト（平成26年度～令和７年度）

・とちぎっ子学習状況調査を要として、義務教育９年間の学びの連続性を重視した本県独自の学力向上システムを構築し、児童生徒一人一人の学力向上に資することを目的として実施。
・「教師の指導力」、「子どもの学ぶ意欲・学習習慣」、「保護者の理解・協力」を学力向上の３つの柱とし、複数の手立てで支援。

⑴　主な取組内容
- 学力向上コーディネーターなどの各種派遣事業
（Ｒ７は、18市町の約150校に派遣）
- 学力向上推進リーダー配置事業
（全市町、Ｈ29から小学校、Ｒ６から中学校にも配置）
- 学力調査結果活用研修会　等

⑵　成果
- 全国と同程度の学力水準を維持（一部上回っている教科もある）
- 自己肯定感等に関わる意識の向上
- 各学校における検証改善サイクルの構築
- 各学校等の学力向上に向けた主体的な取組の促進

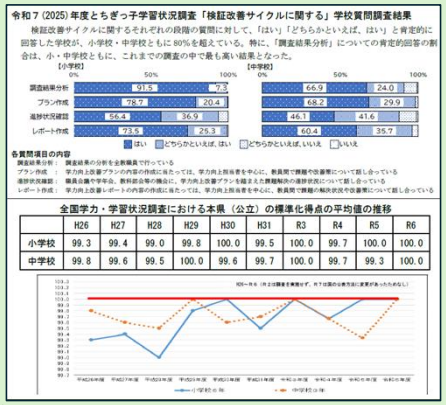
⑶　課題　※県の推進指標は未達成
- 思考力、判断力、表現力等の育成が不十分
- 学力が二極化する傾向
- 学ぶ意欲等の低下
- 検証改善サイクルの運用において、進捗状況の確認が不十分
- 学校・教師間での取組の差



【プロジェクトの全体構想図】

＜関連資料等＞

【学校質問調査結果及び全国調査との比較】



全国学力・学習状況調査における本県（公立）の標準化得点の平均値の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R3	R4	R5	R6
小学校	99.3	99.4	99.0	99.8	100.0	99.5	100.0	99.7	100.0	100.0
中学校	99.8	99.6	99.5	100.0	99.6	99.7	100.0	99.7	99.3	100.0

【自己肯定感・自己有用感に関わる内容について、平成26年度と令和７年度の比較】

※「はい」または「どちらかといえば、はい」と肯定的に回答した割合（%）

学年	年度	自己肯定感 自分には、よいところがあると思う	自己有用感 自分はクラスの人の役に立っていると思う	教師の関わり 先生は学習のことについてほめてくれる	家の人の関わり 家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる
小学校第4学年	R7	84.6	68.0	88.9	87.7
	H26	79.5	53.0	80.8	80.3
	差 R7-H26	5.1	15.0	8.1	7.4
小学校第5学年	R7	83.2	65.2	89.2	87.6
	H26	79.1	51.4	80.8	81.2
	差 R7-H26	4.1	13.8	8.4	6.4
中学校第2学年	R7	80.3	65.8	84.0	80.8
	H26	73.8	51.0	67.6	68.3
	差 R7-H26	6.5	14.8	16.4	12.5

【派遣・配置事業からの確認できたこと】

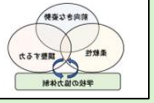
授業改善が促進されている学校の特徴

1　管理職のリーダーシップ
2　ミドルリーダーを中心とした継続的な取組
3　学校の雰囲気、教職員の同僚性
4　家庭との協力

指導力が向上した教員に共通する特徴

1　前向きな姿勢
2　柔軟性
3　調整する力

※学校の協力体制が土台となる



今後に向けて

- **管理職のリーダーシップ**のもと、学習指導主任等を中心に、各学校の組織的な取組の充実を図ること。
- **小まめに児童生徒の学習状況を把握**し、授業改善、及び児童生徒の学習改善に努めること。
- 思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成するため、「**主体的・対話的で深い学び」の実現**に向けた授業改善を図ること。
- 各学校の主体的な取組を支援するとともに、**好事例を広く周知**すること。
- 保護者への啓発方法等についても見直し、**家庭学習の充実**を図ること。